



カトリック六甲教会 教会報

2015

7

No.523



「TOMOに語ろう！私たちの平和！」

5月31日（日）、三位一体の主日に六甲学院において2015年度の神戸地区大会が開かれました。

ミサはたかとり教会の色とりどりの衣装をつけたベトナム人女性信徒による静かで美しいダンスから始まりました。司式はこの度名古屋教区司教となられたミカエル松浦悟郎司教様。三位一体について言葉にするのは難しいといわれながらお話をくださったのは「愛は



開かれてあふれていくので閉じてしまっではいけない」ということでした。もっとも簡単なお祈り「父と子と聖霊とのみ名によってアーメン」をいつも唱え、分裂している世界が父と子と聖霊の姿に一致するように祈ることを勧められました。

ミサの後、休憩をはさんで行われたイベントは盛りだくさんな内容でした。「神戸グレゴリアンチャントの会のグレゴリオ聖歌」は男性のみのグループで静かな祈りの歌をうたってくださいました。続いて三田教会の東保さんによるご自身作の詩吟「日本26聖人賛美の詩」、神戸中央教会の小林昇さんによる手品、鈴蘭台教会の女性によるフラダンスの披露がありました。

その後「教えて！人生の大先輩」と題したパネルディスカッションが行われました。各教会の先輩方の入信のきっかけやご自身の経験、好きな御言葉などが語られました。先日ベーキ神父様の追悼ミサで司式をされた傘木神父様のお話が大変分かりやすく興味深いものでした。

最後に六甲の信徒こいずみゆりさんのお歌で閉会となりました。

出席者は500名くらいでしたでしょうか。残念だったのはごミサが終了したところで多くの方が帰ってしまわれ、すこし会場がさみしくなったことです。神戸地区11の教会が一堂に会することはなかなかありませんし、多くの方が交流を深めることが神戸地区での宣教を活発にすることにつながると思います。このチャンスを生かすことができるとよいと思います。これだけの大会を企画運営してくださった役員の皆様に感謝いたします。



尚、ミサ中の献金は淡路・洲本教会の聖堂改修支援金となりました。 (N.H)

2015 年神戸地区大会体験記

5月31日に行われた神戸地区大会のパネラーを神父様から依頼されたとき、何かお手伝いをして思っていたのでためらいもなくお引き受けしました。ただ「人生の先輩に聞く」という趣旨でしたので、まだそんな年でもないのに自分の軽々しさに後悔の念が少しありました。当日パネラーになった方のうちに、今まで長いお付き合いのあった知人が何人かおられホッとしました。高齢者ばかりなので話が長くなってまとまらないのではないかとといういらぬ心配も、司会者の巧みな質問に気負った感じもなく進行していったのは、まあまあ良かったのかなと思っています。このように何人かの当事者に考えを聞くことは、これからの大会でも役に立つよい企画だと思います。例えば「他国から見た日本の教会」とか「交流の在り方」など考えられるのではないのでしょうか？

舞台上が上がって分かったことですが、照明が会場を暗くしていたので、皆さんの顔がぼんやりとして、座って居られるのはわかるのですが舞台上からはハッキリしません。まるで暗闇に向かって話しかけているようで掴みどころがない感じでした。

これは、今の私の信仰に似ているように思います。今まで私はいろいろな人のお世話になり、手を引いてもらって信仰の道を歩いてきました。しかし、これから進む方向は確かに目の前の客席の仲間、つまり教会の中にあることはわかるのですがはっきりしません。今までの道を振り返れば守られて来たし、導かれ助けられていることは間違いのない事実です。でもこれから先は舞台から客席におられる仲間の中に戻れる道を、手探りで迷わないように歩むようなものかと思います。昨今の心境が舞台の上に出て見えたような気になっています。(藤原)



ナルドの花たより

～教皇フランシスコ ツイートより～

神は常に私たちが待っています。常に私たちが理解しています。常に私たちがゆるしてくれます。

God is always waiting for us, he always understands us, he always forgives us.

(2015/05/19)

神が沈黙を守る時はあります。十字架上のキリストを見つめない限り、その沈黙の意味は理解できません。

There are times when God is silent, a silence which cannot be understood unless we gaze upon Christ crucified.

(2015/05/21)

主よ、あなたに出会えるという素晴らしいたまものを、私たちにお与ください。

Lord, grant us the awesome gift of meeting you.

(2015/06/06)

聖体の秘跡の中に、ご自身を明け渡す神の姿を、私たちは見るのです。

In the Sacrament of the Eucharist we find God who gives himself.

(2015/06/09)

現代の教会は殉教者の教会です。多くの英雄的なあかしが示されています。彼らの勇気から、私たちが学ぶことができますように。

Today the Church is a Church of martyrs, so many heroic witnesses. May we learn from their courage.

(2015/06/13)

2015年度第2回地区役員会（2015年5月30日）議事録

堤 評議会議長、地区役員各位 10:00～11:00

- 1 納涼の夕べ（8月15日）について
- 2 “新生計画20周年振り返りシート”について
- 3 小教区評議会年次報告会（6月14日）について
- 4 神戸地区大会（5月31日）について
- 5 その他
 - ① 聖堂内の赤絨毯の撤去（5月18日実施済）
 - ② 典礼聖歌集を聖堂内席へ置くことを検討中

次回地区役員会 7月19日（日）12:30～



<行事報告>

壮年会懇親会（5月17日）

5月17日に壮年会の懇親会が教会内で有りました。開催連絡があまり伝わっていなかったのか、参加人数は20名程でした。お忙しい中、参加して頂き有難う御座いました。

初めに壮年会の収支報告とこれからの壮年会の有りかたなど、たくさんの意義有る意見を頂き、これからも壮年会を盛り称えて行く事になりました。

その後 アルフレド神父のあいさつの乾杯から親睦会がスタート。

会話と言うおつまみをあてに話しは盛り上がり、楽しい時間を共有する事が出来ました。今回参加されていない人は残念では有りますが、壮年会を維持して行くには皆さんで盛り上げていくしか有りません。次回はどの様な集まりを開催するかは未定ですが、次回は是非参加して下さい。

壮年とは青年期を終えた人の事で、教会に来られている男性は皆さん壮年会の会員だと思って下さい。これからも宜しくお願いします。 (壮年会会長 ヨセフ)

<行事報告>

宣教部主催 春の黙想会（5月23日）

5月23日（土）の春の黙想会にはじめて参加いたしました。

とても助けになったのが、アルフレッド・セゴビア神父の「自分に合う祈り方、祈りの時間、場所、材料を自分自身で見つけることが大事です。」というメッセージです。私たちは、様々な理由で自分に合わない祈りを無理に祈っていることがあります。そこからとても自由な心になれました。神との出会い方、神との関係は人それぞれ違います。

黙想会から一週間、私はまだまだ、自分の祈りを探しています。とてもワクワクしながら……！

(愛徳姉妹会 村山)

5月23日(土)春の黙想会に参加しました。今までこういう会にはあまり出席していませんでしたが、今回は少し考えるところがあって参加しました。平素の個人的信仰生活を振り返って、一度心を落ち着けようと思ったからです。

主聖堂に静かに集まってきた人達、丁寧なオリエンテーションを受け、アルフレド神父様の「祈りを考える」講話を聴講しました。旧約におけるアブラハムの祈り、モーセ、エリヤの祈り、そして新約によるイエスの祈り、さらに自分たちの祈りは如何に、という問いに到達し、私自身としてはこの命題に黙想時間を費やしました。常に唱えているとはいうものの、神との対話である「祈り」。極みが尽きません。食事時間は本来無言で、というところを今回は緩めていただいて、節度ある語らいの場が出来、少し緊張が解けました。ミサもシンプル、修道とはこうあるべきと一人納得した次第です。良い時間を持って幸せでした。

(イグナチオ・YT)



5月23日、春の黙想会はアルフレド神父様のご指導で、聖書の各箇所をあげられ、私たちにとっての神との交わり、祈り、関わりについての講話でした。

神と私との一対一のお祈りは自由な心で飾らない、執着のない心でありのままの自分を現わすことです。神の前に出る時、自分の中に神の宿られる静かなポイントがあるはずで、この静けさは雑念から脱却できる大きな恵みであり、雑念からくる不安を乗り越え、自分の中にある深い中心を感じとり、神の中にいる自分、平和な自分を見つけて初めて深い祈りに入ることができるということです。

大切なことは祈る時、本当の自分でなければ「神と親しく」なれません。神は絶対的な愛です。道に迷った私を「放蕩息子」にされたように、今の私を受け入れてくださいます。「絶えず神に心をむけなさい。心を開いていなさい。絶えず祈りなさい。」

いつもの黙想会より時間は短縮でしたが、集中でき、アルフレド神父様の厳しく優しいお話しは心に深く響き、心豊かな時間を過ごすことができました。次回を楽しみにしています。

(EF)

<行事報告>

東ブロック共同堅信式 (5月24日)

堅信の準備をして



いることです。

私は堅信の準備会で初めて知ったことが多くありました。例えば祈りについてです。祈りの内容が、神様の偉大さをたたえる「賛美」、自分にとっては嫌なこともすべて神のはからいだと信じて感謝する「感謝」、善を願う「お願い」、神に心が向かないことを改める「悔い改め」、誰かのために(敵も)助けや力を願う「執り成し」の五つに分かれて

私は今まで「悔い改め」と「執り成し」のお祈りをあまりしたことがありませんでした。これからは、自分の行いが良くなかった時や、困っている人・苦しんでいる人を助けたい時にも、お祈りをしようと思います。

堅信を受けた実感はまだあまりないのですが、これから知らないことをもっと深く学んでいきたいと思っています。また聖霊の力をかりて学んだことを自分の生活に活かしたいです。 (H.H)

六甲教会より、14名が堅信を受けました。おめでとうございます。

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 小教区評議会

7月12日(日)12:30 評議会開催

📖 中高生会

8月12日(水)～14日(金) キャンプ

📖 地区会

7月19日(日)12:30 第3回役員会開催

📖 典礼部

7月5日(日)11:15～16:00 侍者錬成会

7月18日(土)10:00 部会開催

7月18日(土)13:00 音楽関係者の集い

📖 教会学校

7月11日(土) 終業式

7月11日(土)～12日(日)

キャンプリーダー研修会

7月25日(土) キャンプ1日準備会

8月7日(金)～10日(月) キャンプ

📖 宣教部

7月26日(日)12:30 部会開催

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

7月 1日(水) 10時 手芸の集い (第1, 2会議室) どなたでも参加ご自由です。

11日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホール、お台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達の話し相手や配食だけでもOKです。

16日(木) 14時 ベタニアの集い

19日(日) 10時 ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

24日(金) 9時30分 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホール、お台所)

ひらめの家 就労継続支援B型、生活訓練

カトリック六甲教会では毎月第3日曜日のミサ後のふれあい広場で多くの方から私たちの手作りの品を買って支援していただき心から感謝しております。また、六甲教会のバザーは、私たちにとって地域社会とつながり貢献できる大切な時間と居場所です。みんなで作ったものをよここんで頂き、お求めいただける事が次へのやりがいへと繋がっています。

ひらめの家は、自主製品（せっけん・ジャムなど・・・）を一緒に考えて取り組んで考えて作ったり、店舗やカトリック六甲教会バザーでの販売等を、体調や個人のペースに合わせて行ったり、創作活動や外出などのレクリエーションも行っています。また、生活訓練として地域で自分らしく生きていくために、一人ひとりの一步一步を大切に、それぞれの夢の実現に向けて、就労や一人暮らし、行動改善など各自の目標や課題に沿って、様々なプログラムで体力や集中力を高めています。

これからも引き続きご支援頂けるようみんなで支え合って頑張りますのでよろしくお願い致します。

《ひらめの家は、主に精神等の障害をもつ方が、来られています。地域で自分らしく生きて行く事や、一人ひとりの個性を大切にしてそれぞれの目的に沿って共に歩んでいます》

★見学、利用希望の方はお問い合わせください。

〒657-0059

神戸市灘区篠原南町4丁目1-6

社会福祉法人木の芽福祉会 ひらめの家

☎ (078) 881-1940

FAX (078) 220-7564



「イグナチオ喫茶」よりお知らせ

4月から、毎週の主日10時ミサ後（年末年始と8月を除く）、イグナチオホールにて、イグナチオ喫茶が開かれています。いつも多くの方にご利用いただき、感謝申し上げます。

8月はお休みを頂戴いたします。よろしくお願いいたします。





みんなの広場

霊操

嘗て六甲中学校では毎年夏休みに六甲山上にあった別荘を借りて、信者生徒のために三日間の黙想会が開かれていました。生徒ではなかったが僕も呼んでいただきました。これが最初の黙想会でしたが、今覚えているのは食事に出た腐ったような鰯に辟易したことだけです。

嘗てこの教会でも毎年8月には男子青年会、女子青年会にはそれぞれ外泊で、壮年会と婦人会には通いで三日間の黙想会がありました。内容は「霊操」の「原理と基礎」の要約でした。「原理と基礎」がなければ、何をしても「砂上の楼閣」になってしまいます。

岩波文庫に門脇佳吉師訳註の「霊操」があります。ほんものの「霊操」は無理でも、座右において開いたところを少しずつ読んでみるのはどうでしょう。

「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアはよい方を選んだ。それを取り上げてはならない。」(ルカ10:41から)

ロヨラの聖イグナチオ回心のきっかけは、聖人にとってはあって欲しくないことでした。したいこともできず仕方なく手にした「聖人伝」がきっかけでした。無為、退屈を奨励するつもりはありませんが。

7月31日、イエズス会に司牧を委託されたこの教会も、ロヨラの聖イグナチオを記念します。
(ヨハネ)

オルガンの話

現在、六甲教会には主聖堂にパイプオルガン、小聖堂にリードオルガンがあります。

オルガンはどのようにして音が出るのか、ご存じでしょうか。上記のオルガンは、見た目は全く違いますが、共通点があります。

それは、「風」によって音が出ているということです。

リードオルガンは、演奏者自身が脚でふいごを動かし、風を送ってリードを鳴らします。大きなハーモニカのようなものです。

パイプオルガンの方は、モーターで風を作り、それをふいごに貯めて、そこからダクトを通してそれぞれのパイプに風が送られて笛がなります。リコーダー(縦笛)がいっぱい並んでいるような感じです。

両方とも「風」で音が出るため、人間の声にとっても良く合うものになります。歌の伴奏に適しているのはそういう理由でもあるわけです。

ここからは主聖堂のパイプオルガンのお話です。このオルガンは毎年6月ころに定期点検をして

もらい、機械的に動く鍵盤周りの調整、パイプの調律整音をおこないます。また、オルガン内部に使われている消耗部品（皮製品、プラスチック製部品など経年劣化があります）の取替などが必要な場合もあります。この6月でちょうど丸5年になりました。すっかり六甲の御聖堂にも馴染み、毎回のミサ、祈りと音楽の集いなどで、会衆を支え、働いてくれています。

小さなオルガンですので、目の前にパイプが並んでいます。ちょうど手の届く位置です。

一番前には四角い木のパイプ、そのすぐ奥には金属のパイプがあります。それぞれ空気の出口である切り込みのところはとても大切なものです。ここの部分を歌口と呼びます。子供の時に学校で習ったリコーダーを落としてしまって、歌口が欠けて音がでなくなり、悲しい思いをされた方はおられませんか。この部分のほんの些細な傷が音質にも大きくひびきます。

また、そのすぐ奥の金属のパイプは錫と鉛の合金です。金属ですので固そうに見えますが実は非常に柔らかいものです。少し触るとすぐに変形して音が出なくなります。整音の時も手袋をはめてそ〜と扱います。

目の前にパイプがあるのでとても面白いのです。どうぞ大切にのぞいてみてください。パイプ本体に手を触れずに、そと歌口の所に手をかざしてみてください。音が鳴っているパイプから風が出てくるのを感じることができます。

玉造教会のパイプオルガンは 1963 年に聖堂ができて以来使われてきたものです。今年の耐震化工事とともに大規模修理が施され、ピカピカになりました。これからもまた素晴らしい音色でミサを支えていきます。50年を超えて使われ続けていきます。

オルガンはこうして世代を超えてずっと使い続けていくことができるものです。みんなで、大切に使っていきたいと思います。 (典礼部音楽チームYM)

いつくしみの特別聖年

バチカン放送やカトリック新聞などによると、教皇フランシスコは、今年3月13日、バチカンでとり行われた共同回心式の中で、「いつくしみの特別聖年」を開催する旨を告げられた。

教皇はイエスの愛を見つめるよう招きつつ、神のいつくしみの豊かさを強調された。様々な機会に、神のいつくしみに気づくことの大切さを説き、今日の世界にいかにかいつくしみが必要かを強調されている。

「いつくしみの聖年」は、2015年12月8日、無原罪の聖母の大祝日に、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖年の扉（ポルタ・サンタ）」を開くことで始まり、2016年11月20日、王であるキリストの大祝日に終了。

聖年の伝統は、1300年、ボニファティウス8世から始まり、1475年から、すべての年代の人が一回でも体験できるように、25年毎に行なわれるようになった。

聖年の開幕の儀式は、その期間のみ開かれる「聖年の扉」を開くことにあり、



この扉を開く行為は、信者らに救いの道を与えることを象徴的に示す。聖ペトロ大聖堂を皮切りに、ラテラン聖ヨハネ大聖堂、城壁外の聖パウロ大聖堂、聖マリア大聖堂、ローマの4大バシリカ(古代ローマ様式の大聖堂)の「聖年の扉」が開かれる。

特別聖年の聖書によるテーマは、「御父のようにあわれみ深くなりなさい」(ルカ6・36参照)。回心と悔い改めへの強い呼び掛けが私たちの霊的な成長となりますように。(J.Y.)

教皇フランシスコ「特別聖年のための祈り」

主イエス・キリスト、

あなたは、わたしたちが天の御父のようにいつくしみ深い者となるよう教え、

あなたを見る者は御父を見る、と仰せになりました。

あなたのみ顔を示してください。そうすればわたしたちは救いを受けます。

あなたのいつくしみ深いまなざしによって、

ザアカイとマタイは金銭への執着から解放され、

姦通の女とマグダの MARIA は、造られたもののみ幸せを求めることから自由になりました。

そして、ペトロはあなたを裏切った後に涙を流し、

悔い改めた盗人には樂園が約束されました。

あなたはサマリアの女に、「もしあなたが神のたまものを知っていたなら」と語られました。

このことばを、わたしたち自身に向けられたことばとして聞かせてください。

あなたは、目に見えない御父の、目に見えるみ顔です。

何よりもゆるしといつくしみによって、自らの力を示される神のみ顔です。

教会がこの世において、あなたのみ顔、復活し栄光にあずかる主のみ顔となりますように。

あなたは、ご自分に仕える者も、弱さを身にまとうようお望みになりました。

それは彼らが、無視され、失敗した人たちに深く同情できるようになるためでした。

これらの人々に寄り添うすべての人が、

神から必要とされ、愛され、ゆるされていると感じることができるよう。

あなたの霊を送り、わたしたち一人ひとりに油を注ぎ、聖なるものとしてください。

神のいつくしみの聖なる年が、主の恵みに満ちた一年となり、

あなたの教会が新たな熱意をもって、貧しい人により知らせをもたらし、

捕らわれ、抑圧されている人に解放を、

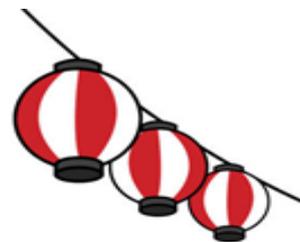
目の見えない人に視力の回復を告げることができるよう。

この祈りを、いつくしみの母である MARIA の取り次ぎによって、

御父と聖霊とともに世々に生き、治めておられるあなたにおささげいたします。

アーメン。

★納涼の夕べのお知らせ★



月日 8月15日(土)

場所 六甲教会 (雨天決行)

時間 17:00 ミサ後よりスタート

出店の担当地区が決まりましたのでお手伝いをお願い致します。

詳しくは各地区の担当者にお聞きください。

地区会担当 木村 牛尾 安田

評議会財務報告会

6月14日、10時ミサ終了後、評議会財務報告会が行われました。

財務委員会から六甲教会全体の平成26年度会計(平成26年4月～平成27年3月)が、評議会財務部から小教区評議会会計平成27年度予算が報告されました。また、評議会施設管理部コーディネーターから今後10年間にわたる六甲教会施設の補修・改修工事の予定と予想される工事費について説明がありました。そして、主任司祭・アルフレド神父よりこれからの次に次の世代へ教会を引き継いでいくかについてお話がありました。



質疑応答も含め、1時間以上の報告会でしたが、残念ながら参加者が少なかったように思います。自分たちの教会について考える機会であったので、残念でなりません。

なお、会場でも強いご指摘を受けましたが、報告の内容上皆様に詳しい資料を配ることはできませんでした。しかし、内容についてのお問い合わせ等については対応いたしますので、主任司祭・評議会等にお尋ねください。

教会事務受付 お休みのご連絡

以下の日程で教会事務受付はお休みとなります。

7月20日(月曜日・海の日)

7月31日(木曜日・聖イグナチオ司祭記念日)

| | |
|--|--|
| 教会報8月号の発行は8月2日(日)です。 原稿は、7月19日(日)正午までに事務 受付へご提出ください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp | カトリック六甲教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 / FAX 078-851-2846 / 078-851-9023 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部 |
|--|--|